

LCIC 現地視察研修にかかる報告書について

学園統括部 入試広報課

望月 亮

【日程】 2024 年 3 月 24 日（日）～3 月 27 日（水）

【報告】

飯田氏による案内、施設紹介・MARK RYEN ANDERSON 先生による授業

- ・学校施設内に入るためには、正門（専用通路）を通り、ID（学生証）をかざすと通行できる。また、学部等、語学棟、寮の各入り口には警備員がいて、学校施設内は安全で安心な学生生活を送ることができる。学校施設内ではセキュリティが万全である。
- ・外国語学部、ツーリズムマネジメント学部、理学療法士学部は、それぞれ制服があり、一目見れば、どの学部か分かるようになっている。あと、華美な服装で登校することはできないということも正門に掲示されている。
- ・フィリピンにある外国語学部は、LCIC とミンダナオ国際大学の 2 大学しかない。
- ・これまで日本から 30 以上の大学から留学生が来ている。中には九州地方のある大学の宇宙航空システム工学科など本学以外の大学からも学生が来ている。学生が長期休みの 8 月や 3 月に留学生が多い。
- ・1 コマ～4 コマ各 90 分授業で、英語だけでなく、SDGs やフィリピンについて学ぶ授業など、学びたい目的に合わせて組み合わせることができる。英語をさらに習得したい学生に英語教員による「One-On-One（別料金）」と「Student Buddy system（無料）」（講師はフィリピン学生が担当し、60 ペソ（ランチに届くか届かないかくらいの金額）で教える。予約が入ると自動的にマッチングし、レッスンが行われる。）他にも山へ 1 週間のキャンプへ出かけたりボランティアを行ったりして、それらの活動について、英語でプレゼンテーションを行うなど、現地の自然や異文化を体験できる。フィリピン人は日本語科目を必修としているので、日本語を学びたいフィリピン人にとって、日本人留学生と会話することは非常に貴重であるため、お互いが言語を学び合う最適な場である。
- ・食堂のメニューはビュッフェ形式と、日本食（3 種類）の中から選ぶ方式の 2 種類があった。寮生は日本食の中から選択するようになり、別料金でフィリピン料理などのビュッフェが食べられる。
- ・フィリピンのトイレは排水管が細く水流も弱いため日本のトイレに比べて詰まりやすく、下水処理環境も整っておらず衛生面で不安を感じるが、LCIC 内ではトイレは全てウォシュレットが備わっており、日本人が普段当たり前で使用しているトイレと同様に使用できるので、特に日本人留学生は安心してトイレを使用することができる。

寮見学

- ・留学生は全員寮に入る。建物入口には、ID（学生証）や記帳するなど入退の管理が徹底的に行われて

いる。また、お酒の持ち込みは禁止なので、寮に入る際にはしっかりと確認されている。男女で建物が分かれており、建物の自由な行き来ができないようになっている。

- ・シェアハウス型で、10 人 1 ユニットの全員個室であり、個室には机とベッド、クローゼット、金庫、エアコン（各部屋 1 台）など、必要最低限のものがある。個室に 1 人でこもらず誰かと話す環境を常に作るための構造である。共有場所には冷蔵庫や流し台、レンジなどが設置されている。5 階建てで 1 階には自習室や卓球台がある部屋、自由に話することができる部屋がある。寮内では、日本以外の様々な国からの留学生が生活しており、様々な言語が飛び交い、それぞれが習得したい言語について話し合っているとのことだった。
- ・大浴場、露天風呂、サウナはフィリピン内ではここだけしかないという特別な空間だった。特に露天風呂の景色、空港が見えるなど心地よい居場所であった。

その他の視察

LCIC 視察後、チャーターバスにて、セブ市中心部にある、タボアン市場や教会、史跡を視察し、ラブラブ王の銅像のあるマクタン島のマクタン・シュライン（記念公園）にも行った。また、LCIC のパンフレットにもあるフィリピン南東部のオスロブ（ジンベイザメで有名）、スミロン島（世界有数の美しい離島）、マントユパンの滝（セブ島南部の町 Barili にある人気の滝）を巡った。

今回、視察した市場や教会、史跡などに足を運ぶことで、歴史を感じ、異文化を考えることができた。また、留学の目的は語学学習がメインとイメージを持たれる方が多いと思うが留学先（ここではフィリピン）のことを知ることにより語学学習に深みをもって取り組めると実感した。そして、フィリピンでは自然豊かな場所、海が綺麗で世界的にも有名な観光地が多くあり、そのいくつかの観光地に今回行くことができ、感動もしたし、世界観が広がったとも思えた。学生の皆さんにも是非、留学した際には観光地に出向き、実際に体験してほしい。

まとめ

この度の LCIC 現地視察研修では、LCIC の施設等を実際に視察、体験できて、パンフレットでしか見たことない空間に自分が入り込んでいてとても不思議な感じであった。実際の授業風景では、レベル別のクラスがあり、留学に興味はあるけど英語の実力にまだ自信がない人に対してもおすすめできる内容だと改めて感じた。日本人によるサポートもあり、一人で迷わない体制が整っているのは、異国の地で留学する上で大切だと思った。さらに英語だけでなく、SDGs やボランティアなど様々な活動ができる機会があるので、学生のうちにいろいろチャレンジすべきだと思うし、薦めていきたい。また、フィリピンはどのような国なのか、ラブラブとは何の名前なのか（名前の由来などあるのか）、歴史的背景など現地のことを考えるとさらに留学が充実し、自分自身の意識向上や成長に繋がると感じた。私自身も当初、「ラブラブ」の名称について聞き慣れなかった（何も調べずただ名称を聞くと）がのちにフィリピンの国民的英雄となったラブラブとキリスト教の布教を行ったマゼランがマクタン島で戦った歴史を知ったことと実際にマクタン島内を巡るとあらゆるところでその歴史を感じられることができ、興味関心が強まった。飯田氏から、日本の中学・高校で英語を学び、読んで書くことはできる人はいるが英語

2024 年 4 月 1 日

で会話するとなるとそれは難しい人が多く、留学を経験することでより実践的な英語を学べ、いろんな視点や世界観が変わってくる、という言葉が印象的であった。

